

## 犬山城郭構造

犬山城の天守は、日本に残っている12の天守の内の1つです。江戸時代の状態で保存されており、内側の本丸と空堀とともに、かつてはより大きな城郭でした。

熟練した石工と大工は、石と木を使用し、泥と白い石膏の層を追加して、火から守りました。彼らは装飾的な窓枠、波打つ破風、そして広い屋根の細部に細心の注意を払い、犬山城が単なる強固な要塞であるだけでなく、力と影響力の象徴として建つ建築的に美しいことを表しました。

杉、檜、松などの保護林に囲まれた木曾川の南岸に建てられた古典的な丘の城（平山城）です。

急な階段を4階登り、石垣、穴蔵、手で削られた露出した木材の梁を通過します。最上部の展望台からは、川と周囲の山々の息をのむような景色を眺めることができ、この近世の要塞がどのように自然の障害と保護を活用していたかがわかります。